十二　江戸時代の金浦

江戸時代に入って、元和四年（一六一五）山川庄兵衛の検地の結果金浦村の石高は百七十石である。これが以前よりどれだけ増えたのかはわからない。石高というのは水田からの米の取れる量である。畑の作物も米に換算して合算している。この検地の際、隣の野間村が（田の口を含む）百七十石と同じ、塩田が約九十八石、大内が三百四十六石、新堂が百七十一石となっている。我々の祖先の農民は、この田畑に米や野菜などを耕作して生活を営んできた。